

色は匂へど

IRO

WA

NIO

E

DO



特集 吉野の桜と西行の世界

覚悟

桜の散り際の潔い美しさは格別です
風に花びらが舞うと、華やかな世界が
一瞬のうちに翳りをみせ移ろいます

この移ろいゆくものに、もののあはれを感じる
日本人独特の感性です

このあはれは、貴族から武士の世界に移り
あっぱれに変わります

西行は北面の武士という身分を捨て
歌の世界に生きた歌人です
もののあわれを歌にこめ
あっぱれに生きた生涯の源は

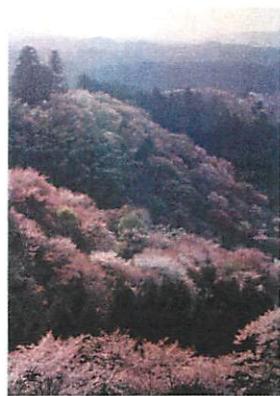
覚悟です

今 日本人が見失っているもつとも
大切な心です



日本の心と形

3



特集

吉野桜と

西行の世界

5

現代の道しるべ



新刊紹介



15

13

大塔建立と『いろは歌』



11

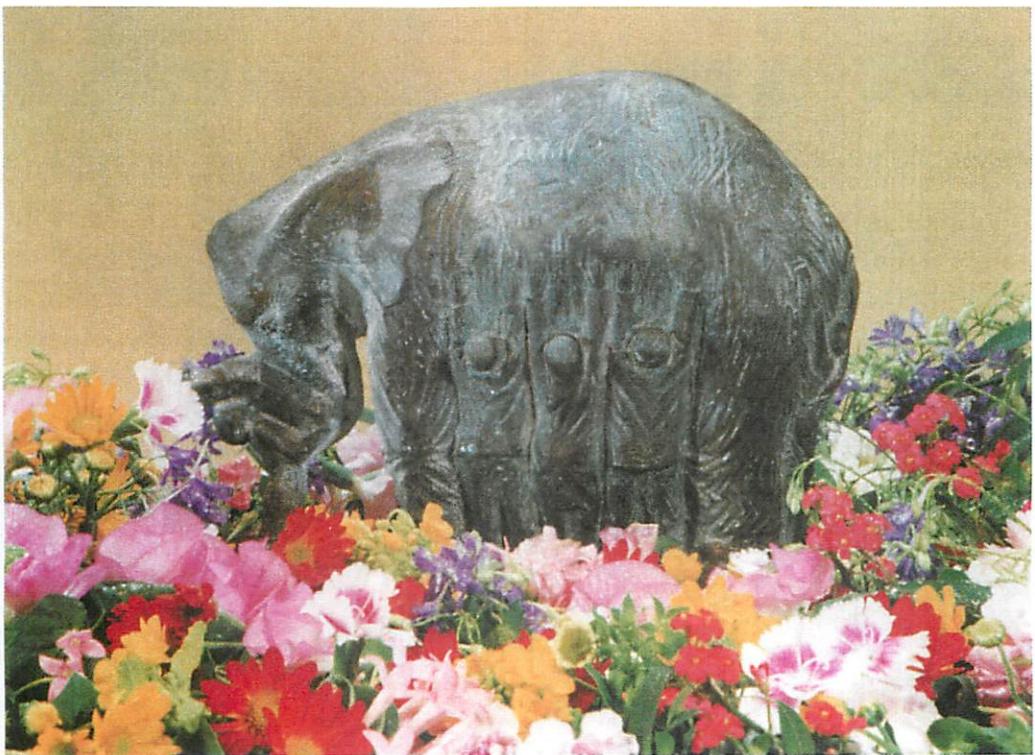
弘川寺

西行ゆかりの

弘川寺

16

日本のこころと形



象のブロンズ 二輪規朗作

象の鼻だけを触っている子は、鼻しか知らない。
象のしつぽをつかんで放さない子は、
しつぽしか知らない。

自分がどれほど巨大なものに触れているかを、
その子たちにはわからない、
というたとえがあります。

私はこんなふうにも思います。

象の鼻は南の国。

象のしつぽは北の国。

南に住む子供は、北の子どものことがわからない。
花咲き乱れる南国を離れたことがないから、
氷に閉ざされた北国が理解できないのだと。
男の子は世界が見渡せる大きな心を持つた
人になつてほしいと思います。

象は、地球。

PHOTO SHU FUJIWARA

お釈迦様の誕生のお姿は

右手で天を指し

左手は大地を示し

天にも地にも我一人
ゆえに尊し

と言われました

かけがえのないたつた一つの
命の尊さを高らかに

謳われました

その時 天上の神々が

甘露の雨を降らし

お釈迦様のお誕生を祝いました

私たちも

甘露の甘茶をかけ

お釈迦様のお誕生を祝い

また尊い命を頂いたことに
感謝して合掌しましょう



吉野桜と西行の世界

写真 吉村正治

行くへなく月に心のすみすみて

果てはいかにかならんとするらん



面影の忘れまじき別れかな

名残を人の月にとどめて

そらになる心は春の霞にて　世にあらじとも思ひ立つかな



私が歌を詠むのは普通とはことなります。花や月、雪、すべてが宇宙の仮の姿ですから、花を歌つても花と思わず、月を詠んでも月と思わず、ただ縁にしたがい興のおもむくところ詠んでいるだけです。虚空に美しい虹がかかれば、虚空も彩られ、虚空に日輪が輝けば、虚空も輝くように。私も虚空のように、何物にもとらわれない自由な心で歌を詠むので、風情を彩るといつてもなにもあとには残さない。これこそ大日如来の本当の姿というものです。

それゆえ私は一首詠むたびに、一体の仏様を造る思いをし、一句詠むとは秘密の真言を唱えているのと同じです。

私はこのように歌を詠んできたので法を得ることができました。そうでなければ邪道に落ちたでしょう。

山深くさこそ心はかよふとも　すまで哀をしらんものかは
(山深く分け入つてどんなに思いをはせても、実際に山に住んでみなくてはそこの哀れを知ることは出来ない)

これは西行さんが高山寺の明恵さんを訪れたとき、歌の心を語った言葉と言わわれています。

西行法師は平安時代の最後の激動の七十年を生きた方です。

保元平治の乱があり、やがて平家が実権を握りますが、その栄華は短く、東国から源氏の力により西海に没します。

東大寺・興福寺は平重衡により焼失しました。

この激動期、同じ時代には

真言宗を中興された興教大師覺鑑上人

灰燼に、帰した東大寺を再建された俊乗房重源

高山寺を再興された梅尾の明惠上人

また臨済宗の開祖で茶をひろめた、栄西上人もいます。

吉野山こずえの花をみし日より 心は身にもそわざなりきに

花見にと むれつづ人の来るのみぞ あたら桜の咎にありける



春風の花を散らすと見る夢は さめても胸のさわぐなりけり

桜の西行法師
月輪の覚鑁上人
夢の明惠上人

このたぐい希なる
感性を示した
名僧たちがその後、
絢爛と花開く
日本文化の源となる。

北面の武士

佐藤義清から西行へ

のりきよ

西行は佐藤義清といい、北面の武士、佐藤一族を率い徳大寺の家人として華やかな生活をし、また紀州には大きな荘園を営んでいました。この田中庄という荘園は根来寺から高野山にかかる大きな荘園です。

徳大寺家は歌の名門でその流れの中にやはり同時代に冷泉家の祖、藤原俊成、定家父子がいます。その義清が二十三歳で突然出家をします。満月の日に出家し法名を円位、西行は号です。出家の動機には多くの謎があり

それがまた西行の魅力にもなっています。

明日また会うことを約束した親友、佐藤範康の急死。徳大寺家の主、実能の妹で鳥羽院の后、待賢門院璋子への恋心、また自らの父とも頼む鳥羽院との荘園の境界の争い。

西行の歌に自らに問うかたちの歌が多くあります。己の心の葛藤を歌に託しています。

西行は心の揺らぎを桜や月にたくしながら、やがてなにものにもとらわれない、自由な心をえます。

西行は早くに高野山に庵を結びますが、鳥羽院が深く帰依をしていた覺鏡上人頼つてのことだと思います。西行の歌に多く詠われる月は、月輪、大日如来の意味です。覺鏡さんは深遠な密教の世界を漢文で和文に見事に顯した天才ですが、覺鏡さんの書かれた詩の中にはやはり月の歌が多く詠われています。

日本の文化は大陸の文化を移しただけだ、などと言う人がいますが、日本は和歌の国です。まだ文字を持たないころから多くの歌が作られ読まれています。仏教が日本の中に深く融合しさらに新しい次元を開きましたが。その中から和歌陀羅尼論が説かれ、また万葉化仏とも言われました。

和歌の一語、一語、言の葉一つ一つが仏であり、仏の言葉。それは西行の

それゆえ私は一首詠むたびに、一体の仏様を造る思いをし、一句詠むとは秘密の真言を唱えているのと同じです。

この言葉に通じます。

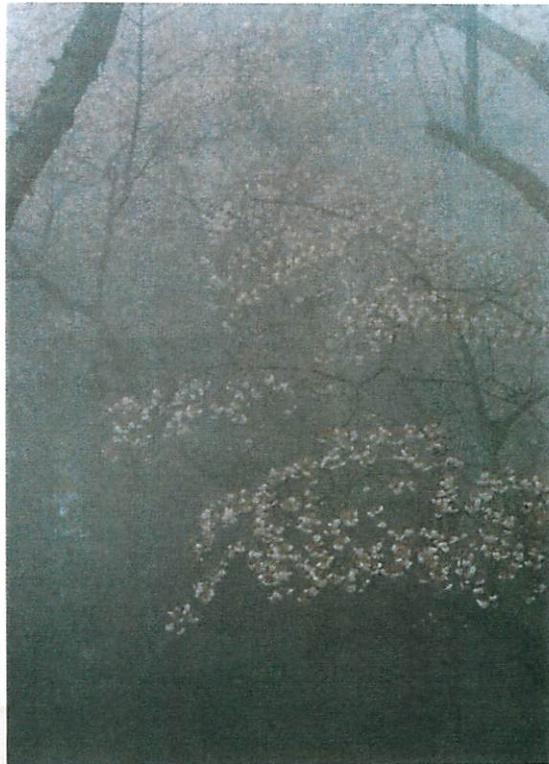


吉野藏王堂 役の行者（役小角）が桜の靈木で金峯寺の本尊、藏王権現を彫ったことから、桜の木を大切にし吉野山に植え続けた。
椿の巨木 などを使った藏王堂とそこから今にも歩みでそうな藏王権現は圧巻。

吉野山こぞの枝折りの道かへて まだ見ぬかたの花を尋ねん

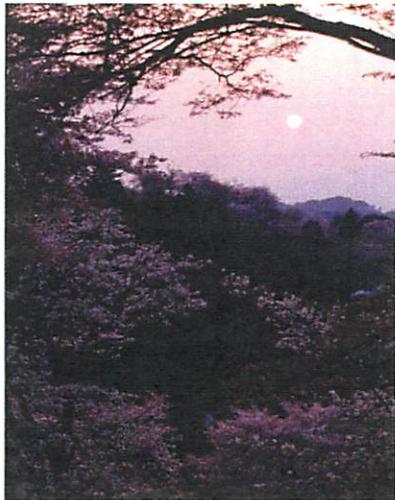
しおり

花見ればそのいわれはなけれども 心のうちぞ苦りしかりける



大峰 行者返し 笠の岩屋を望む

花にそむ心のいかでのこりけむ 捨て果ててきと思うわが身に



とくとくと落つる岩間の苔清水 汲みほすほどもなき住い居かな

伊勢の外宮は金剛界曼荼羅の世界、内宮は胎藏界曼荼羅の世界。両方を参ることで、金剛胎藏二つの曼荼羅世界に参れたと云つて尊んできました。

最後の陸奥への旅は俊乗房重源に頼まれ、東大寺大仏殿再建の為の金の勧進に行くためでした。途中、鎌倉、鶴岡八幡宮で偶然、頼朝に会い、頼朝から歌の極意を聽かれても「ただ花や月に心をつきうごかされて三十一文字をつらねてゐるだけで、奥義などは知りません」と答え、さつさと帰つてしまつた。そのとき押領した白銀の大も門前の子どもにやつてしまつた。そして陸奥へと。やがて東大寺には無事多くの金がもたらされました。奥州を支配していた、藤原氏、徳大寺家、藤原俊成、定家父子、そして待賢門院も西行も同じ藤原氏の流れの中あります。（表紙写真も吉村正治）

奥の細道で有名な芭蕉は西行の遺徳を慕つて旅に出ます。西行は早くに陸奥を旅し、吉野や大峰、熊野を詣ります。弘法大師を慕つて、讃岐の善通寺、曼陀羅寺、出釈迦寺を訪ね、さらに伊勢に参ります。

なにごとのおわしますおば知らねどもかたじけなさの涙こぼる。

伊勢の外宮は金剛界曼荼羅の世界、内宮は胎藏界曼荼羅の世界。両方を参ることで、金剛胎藏二つの曼荼羅世界に参れたと云つて尊んできました。

最後の陸奥への旅は俊乗房重源に頼まれ、東大寺大仏

西行ゆかりの弘川寺

ねがわくは花の下にて春死なん その如月の望月のころ



河内 弘川寺 周囲には高貴寺や滝谷不動などの名刹が多い。

西行は自ら詠まれた歌の通り
二月十五日つまり
お釈迦様の涅槃会の日に
満月の中で
満開の桜の下でなくなられた
歌の通りの最期は都でも話題になつた
さすが西行だと

西行は自ら詠まれた歌の通り

二月十五日つまり

お釈迦様の涅槃会の日に

満月の中で

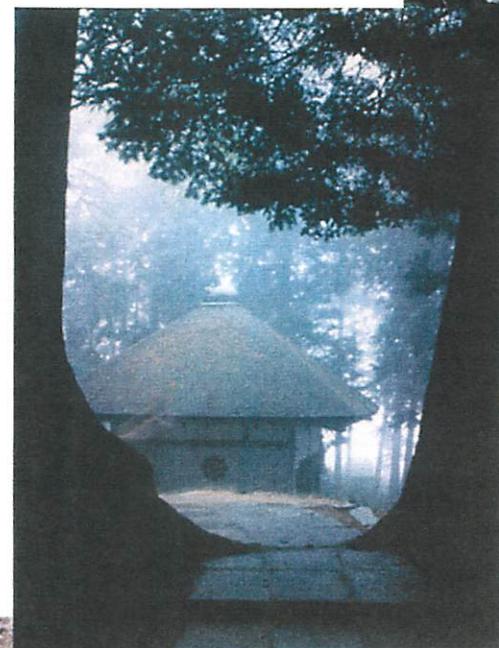
満開の桜の下でなくなられた

歌の通りの最期は都でも話題になつた

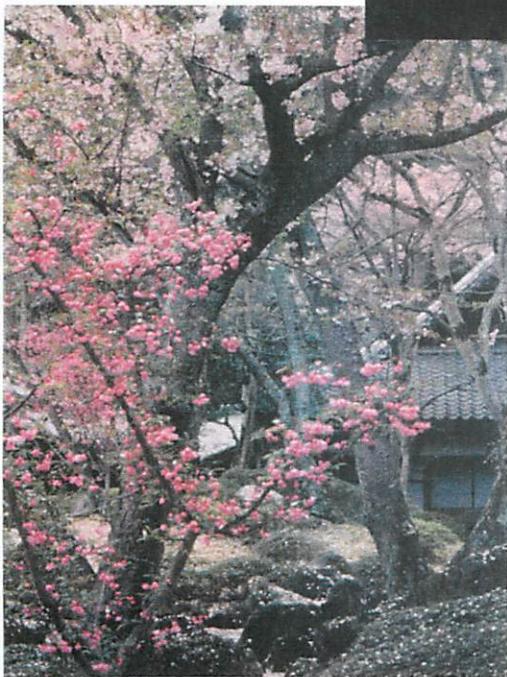
仏には桜の花をたてまつれ わが後の世を人とぶらば



弘川寺にある西行上人の石塔



弘川寺 西行庵



景気をよくする一つの方法

景気とは風景の気配

今年はいつになく早く梅が咲いた。紅梅、白梅、そして美しい香りの蠟梅も。そこに足を向けると遠くからでも梅の良い香りが漂い、よく見ると鳶が梅の新芽をついばんでいる。

その風景の気配が絶妙で宗達や探幽ならざぞ美しい絵をものにするだろう。こんな美しい風景を見ても心に悩みがあつたり忙しさに心を奪われているときは、この景色が心に映らない。じつはそんなときこそ、美しい風景に目をむけ、心にその風景の気配を感じるところの景気が良くなつてくる。

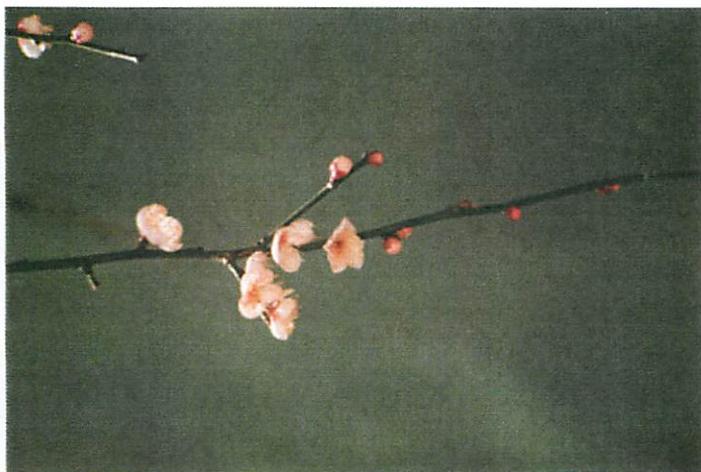


PHOTO SHU FUJIWARA

日本ではこの良い風景の気配を巧みに生活の中に取り入れ、また自ら家の中や庭先、また辻々にも工夫をこらして、その場所の景気（風景の気配）をよくしてきた。

たとえば正月に門松を立てる。松は本来、山の生命エネルギーの充実した靈木で（中でも根曳きの松は、その力が強いので尊ばれた）山の持つ生命エネルギーと山の持つ良い景気を家に飾ることで、その家の景気もかわる。そしてこの松を依りしろに、お歳さまという神様が新しい歳をその家に運んできてくれる。家中には鏡餅を飾る。するとその床の間に凜とした空気が漂い、新しい歳への思いが込められるようになる。

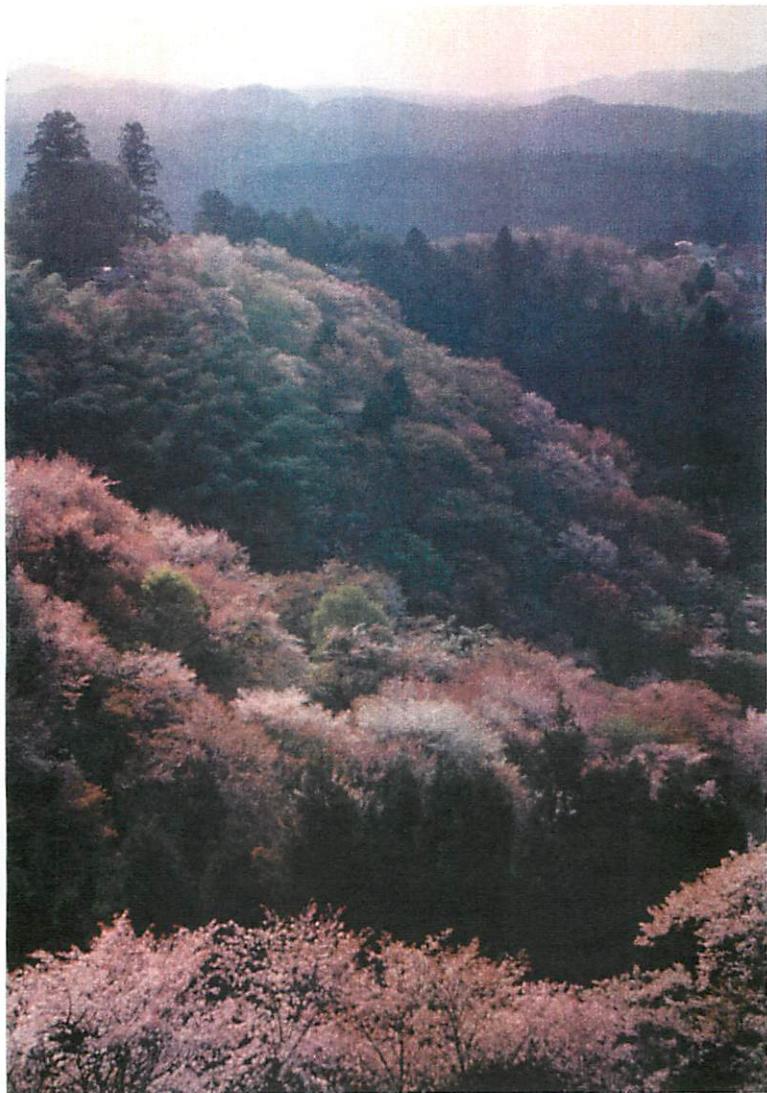


写真 吉村正治

節分に豆をまき、花祭りに花を飾り、端午の節句に菖蒲湯に入る、季節季節の行事を通して、心の色を深く豊かにする。床の間が無くても部屋の小さな片隅を見立てて、春夏秋冬に飾り付けてみる。その空間から華やぎが生まれ、会話が生まれ、良い景気が生まれてくる。

またその空間から今度は自然への眼差し、つまり地球や宇宙の大きなリズムまで感じられるようになる。

家でも事務所でも家庭でも、こうした小さな積み重ねがもつと大きな景気にもつながつてくる。

高麗屋の女房

藤間紀子著

毎日新聞社



私の頃の時、ませの話題

みんなが何を隠しながら帰ってきて、おまけの軍人までいる。誰も出でなくていい子供がいた。また、少額の高額な贈り物がいた。それが、こんな強盗が、だれ、誰の財物を盗む。うそ。

マスクミからあふれる情報は紙面や画面を作るための方的な断片情報で、大事な事実や、その事実に積み上げられた真実の全体がみてこない。歌舞伎という独特の世界に妻として母として、また高麗屋の女房として生きる筆者が初めて解きあかす、家族の姿。一つ一つの出来事を丁寧に積み重ね、さりげない文章が大きな説得力をもち、くつきりと浮かび上がる真実の世

全日本ラグビー監督
平尾誠二氏二人の絶妙な
「間」が織りなす世界。この
本を読んで何を得るか
は、読者次第。でも総ての
リーダーや経営者には必
読。

とにかく面白い。人に教えるたくないほど。坂本龍馬はなぜ薩長連合をなせたのかを考えていると、やはり童馬は剣の達人。間の取り方が天才だ。西郷と話しても相手の間合いに言葉の刃を切り込む事が出来る。勝とはどうついたたのだろ。



多時空論

國宮
紳

紘藤原書店

真言密教への誘いを書いていただいている、西宮さんの新刊、多時空論。あらゆる時空は破れる。その破れ目を通して他時空とつながり、宇宙は壮大な多時空間を共生している。最終章「インドラの時空」は空海密教の本質に迫り、曼荼羅からパラダイムがわかれながらの宇宙の根源を解きあかす。



万代うしい先生譜

大塔建立秘話

いろは歌の秘密と 大塔



『いろは歌』はお大師様の作と言われています。かなも、あいうえおも弘法大師作と思われます。今伝わる最古の仮名は京都、

東寺金堂の千手觀音像四十二臂内刳から発見された桧扇に落書きされていた仮名です。

八七七年ですからお大師様ご入定後四十年後のものです。『いろは』の最古のものは

『金光明最勝王經音義』の冒頭の凡例です。

五島美術館の入り口横のガラスケースに模本がひつそりと飾られています。

弘法大師は高野山で過去に前例の無い建築、大塔を完成させるため、その複雑な木組みをわかりやすくするために、『いろは歌』を作つて工匠や木地師に伝えたとも言われています。

いまでも寺院建築の木組みには『いろは』を記号にして複雑な建築を完成させていきます。

上の『いろは歌』の下の漢文は『大般涅槃經』の詩です。真言宗を中興した興教大師覺鑑上人が『いろは歌』に割り付けたものです。

仏教をわかりやすい日本語に置きかえた覺鑑上人は『いろは歌』には教典の詩を割り付け『いろは歌』にさらに深い意味を抜けました。

色は匂へど散りぬるを
わが世誰ぞ常ならん
有為の奥山今日越えて
浅き夢見じ醉ひもせず

諸行無常
是生滅法
寂滅為樂

「色は匂へど」も好評のうちに第二期にはいりました。この小冊子を出すようになつてからたくさんのお客様が広がりました。この一年間を振り返ると

感動したこと

*光悦の赤楽茶碗でお茶をいただけたこと。

喜多能楽道で拝見した清経。

お台場日航ホテルで聴いたチエロ、カザルスの鳥の歌。

全真言宗青年連合の高野山

奥の院での法要。

いずれもその感動が鮮やかに甦る貴重な経験でした。

素晴らしいこと

熱海海峯楼での香道の会。

染五郎と時蔵の新口村。

よいニュース

*トヨタからプリウスという電気とガソリンのハイブリットカーが世界に先駆けて商品化されたこと。

神社本庁がどんどん焼きでのダイオキシン排出を禁止しなおダイオキシンを発生させる恐れのあるお守りは作らないと決めたこと。

ダイオキシンが体内に蓄積され、胎児や子どもたちの体や心まで蝕み始めている今、環境への考えが経済性を伴いはじめたこと。

環境問題は経済性を伴つて初めて世界規模で解決できる。

さらによいニュースは

茸にある木材不腐菌という菌にダイオキシンを分解する能力があるということ。

体内に入ったダイオキシンはペクチンが体外に排泄させる力があるということ。

ペクチンは柑橘類に多く含まれ中でもグレープフルーツには多く含まれている。（輸入食材は相変わらずガスで消毒しているのだろうか。）

またホンダの開発中のエンジンは、その排気ガスが回りの空気よりきれいな排気ガスを出すということ。

すべての車のエンジンがCO₂を減らし空気をよりきれいにできればいい。

毎年一千万台生産されるすべての車が実は空気清浄機でもある。

CO₂といえば京都会議は予想通りの結果。あれほど喫煙をヒステリックに騒ぐアメリカはタバコよりもCO₂でがんばつてほしかった。個人の自立が言われるが日本もそろそろ国際的にも自立しないといけない。しっかりと自立した個人が手を携えて作り上げるネットワークや地域、しっかりと自立した国々が手を携えて構築する国際社会、その中の世界標準が構築できないと、先進国対発展途上国、北と南、等など対立の構図は変わらない。

今

大量生産

大量販売

大量消費

大量廃棄という経済社会は限界に来ている。

大量生産のための環境の大量破壊。

大量廃棄のための環境汚染。

今年に入つての大雪も地球温暖化の影響で例年以上のエルニーニョ現象のためらしい。

17

大雪といえば

一月八日に箱根の茶室を見に行こうとしたところ、大雪で東名を厚木で下ろされた。料金所すでに大渋滞。料金を払い終わった大型トラックが場所をかまわずチエーンを着け渋滞が益々ひどくなる。

一般道に降りてもほとんど身動きがとれない中、カーナビで近くのホテルを検索。すでにどこも満杯だったが厚木のロイヤルパークは大変親切で部屋は一杯だがロビーが使えること、また地下駐車場も利用できた。雪の中で野宿も覚悟していたが本当に助かった。しかし約2キロのホテルまでなんと6時間もかかってしました。無事ホテルに着き暖かい駐車場で一夜を過ごせしかも駐車場は無料。

本当に有り難うございました。

翌朝近くの市役所で道路状況を聴いても全く情報がなく唯一（日本道路交通情報センター）の電話番号をくれたが、ここは昨日から全く電話が通じない。

情報化社会で肝心な情報が全く手に入らなかつた。という阪神大震災で被害にあつた人の言葉を思い出した。

雪でこれでは震災でははたして？

*過去の蓄積で対応できない社会の激しい変化の中では海図のない航海を帆船でするようなことだと思う。

砂漠の横断の経験やヨットの経験が政治家や経営者に求められるようになる。

*不思議だったことは

*もののけ姫の大ヒット

『風の谷のナウシカ』

『となりのトトロ』

『紅の豚』どれと比べても良くなかつた

ダイアナ妃への世界中の哀悼

イギリスの住んでいる兄弟が

『献花に行かざるをえない空気なんだ』と語っていた。

人々を動かす空気については山本七平氏『空氣の研究』という名著がある。

佐藤総務庁長官の辞任。これほど人権・人権と叫ぶマスコミが手のひらを返して法律的にも完全に終わつた過去を騒ぎ立てて辞任に追い込んだこと。

*宮城県知事選挙

自民党と当時の新進党が協力した候補者が落選した。政治家の意識と国民の意識がこれだけ乖離すると政治家には国民の要望が全く見えない。行革でも、国民が望むのはシンプルで効率が良く誰にでもフェアードオープンな行政への転換であつて、名称や組織の表面的な変更ではない。

歴史から学ぶと信長の楽市楽座。これで信長の城下は人も情報もお金も集まり急速に栄えていつた。世田谷ボロ市ももとは楽市だった。

*種子島に伝来した鉄砲は急速に広まり信長の時代には全ヨーロッパをしのぐ鉄砲が日本で作られたが、秀吉以降、鉄砲は日本では発達しなかつた。秀吉の刀狩も一因だが、開発力も生産力もある日本が鉄砲という武器を否定したのはなぜだろう。

この時代から『茶の湯』は逆に大きな隆盛を極める。



PHOTO SHU FUJIWARA (YAMAFUJI)

この本はツリーフリーペーパーで作られています
さとうきびから砂糖を取り出したあの 残った纖維から作られています

次回発行は 6月1日予定
特集 松尾剛次が語る 救済の思想

Editor RYUJU ABE Art Director and Photographer/SHU FUJIWARA Spacial Contributors/RYUICHI ABE KO FUJIWARA
Editorial Staff/ MIWA SAMURO KOJI TOKUMARU EISHIN TAKAHASI REIKO SUDO KAZUFUMI MOTOYAMA
HOMEPAGE DESIGN MASAAKI OKA HIROYUKI HANAWA Making Mechanic SANMITUSA Printing KORINKAKU
PUBLISHER RYUBUN ABE EDITOR RYUJU ABE EDITORIAL OFFICE MANGANJI SHUGEISHUCHIIN S.H.C

〒158 東京都世田谷区等々力3-15-1 電話 03-3705-1622 フaxシミリ 03-3703-4979

Shingon Horonic Irowanioedo 第六号 平成十年弥生一日発行